

現代社会

(解答番号 ~)

第1問 Kさんの高校の現代社会の最初の授業で、先生は次のような話をした。

「この科目を学ぶ上では広い視野をもつことが必要です。そのためには日本や世界の歴史、そしてその背景にある思想などを深く理解することも重要です。例えば現代の社会の制度も国によって違いますが、実際には共通の思想を各国それぞれ違った形で受容し発展させていることも多くあります。私たちも歴史や古典を振り返りつつ、グローバル化する現代社会における変化を理解していきたいですね。」

定期試験が近づき、自宅で勉強をしていたKさんは、先生のこの話を思い出していた。次の問い(問1～8)に答えよ。(配点 26)

問1 Kさんは、現代社会の授業を聞いて自分で作ったカードを眺めていた。それは西洋思想の日本への受容について考察した思想家の本を読んで印象に残った部分を抜き書きにしたものだった。次のア～ウはKさんが作った福沢諭吉、夏目漱石、中江兆民の著作のカードである。福沢諭吉と中江兆民の著作のカードの組合せとして最も適当なものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

ア

縦令い恩賜的民権の量如何に寡少なるも、其本質は恢復的民権と少しも異ならざるが故に、吾儕人民たる者、善く護持し、善く珍重し、道德の元氣と學術の滋液とを以て之を養うときは、時勢益々進み、世運益々移るに及び、漸次に肥腠と成り、長大と成りて、彼の恢復的の民権と肩を並ぶるに至るは、正に進化の理なり。

イ

……西洋の開化(すなわち一般の開化)は内発的であって、日本の現代の開化は外発的である。ここに内発的というのは内から自然に出て発展するという意味でちょうど花が開くようにおのずから蕾が破れて花弁が外に向うのをいい、また外発的とは外からおっかぶさった他の力で已むを得ず一種の形式を取るのを指した積つもりなのです。

ウ

……学問をするに、いずれも西洋の翻訳書を取調べ、大抵の事は日本の仮名にて用を便じ、或いは年少にして文才ある者へは横文字をも読ませ、一科一学も実事を押え、その事に就きその物に従い、近く物事の道理を求めて今日の用を達すべきなり。右は人間普通の実学にて、人たる者は貴賤上下の区別なく皆ことごと悉くたしなむべき心得なれば、この心得ありて後に土農工商各々その分を尽し銘々の家業を営み、身も独立し家も独立し天下国家も独立すべきなり。

- ① 福沢諭吉 — ア 中江兆民 — イ
- ② 福沢諭吉 — ア 中江兆民 — ウ
- ③ 福沢諭吉 — イ 中江兆民 — ア
- ④ 福沢諭吉 — イ 中江兆民 — ウ
- ⑤ 福沢諭吉 — ウ 中江兆民 — ア
- ⑥ 福沢諭吉 — ウ 中江兆民 — イ

問 3 プリントには、モンテスキューが影響を受けたイギリスのロックが『統治二論』で展開した権力分立論についても書かれていた。Kさんは「モンテスキューとロックの権力分立の考えを照らし合わせてみよう」と思い、ロックの考えの特徴をカードⅢにまとめた。その上で、現代の政治体制について調べて、考察を加えた。カードⅡと比較した場合のカードⅢの特徴や、政治体制に関する記述AとBの正誤の組合せとして最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

3

カードⅢ：ロックの権力分立論の特徴

- ・ 国家権力を、立法権と執行権とに区別・分離する。
- ・ 立法権は、議会在が担う。
- ・ 執行権は、議会の定める法律に従わなければならない。(ただし、執行権のうち、外交と国防に関するものについては、法律によらずに決定できる。)

A ロックの権力分立論は、モンテスキューと同様の観点から国家権力を三つに区別・分離するものであるといえる。

B 共産党の指導の下にある中国の権力集中制は、カードⅢにまとめられている国家権力のあり方と合致する。

- ① A — 正 B — 正 ② A — 正 B — 誤
③ A — 誤 B — 正 ④ A — 誤 B — 誤

現代社会

問 4 翌日、Kさんは、定期試験の準備のために高校の図書室に友人のUさんとIさんと集まった。Kさんが自作のカードを見せると、Iさんが「モンテスキューの裁判権の考えは面白いね。今日は司法について復習をしようか」と言い、3人は復習を始めた。現代日本の司法に関する記述として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 4

- ① 裁判は、裁判所による許可がない限りは、非公開で行われる。
- ② 個々の裁判官は、良心に従って独立して職権を行い、憲法及び法律にのみ拘束される。
- ③ 最高裁判所長官は、国会が、議決を経て指名する。
- ④ 罷免の訴追を受けた裁判官を裁判する弾劾裁判所は、衆議院のみが設置する。

問 5 司法の分野を復習しながら、Uさんが「検察官や弁護士が大活躍するドラマは面白いよね。でも、先生は、実際の刑事裁判はもっと複雑だと話していたね」と言った。刑事事件に関わる法制度や裁判手続きに関する記述として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 5

- ① 刑事裁判では、裁判官の下で当事者が妥協点を見付けて訴訟を終結させる和解が行われることがある。
- ② 検察官による不起訴処分の当否を審査する検察審査会の審査員は、裁判官から選出される。
- ③ 有罪判決が確定した後であっても、一定の条件の下で、裁判のやり直しを行う制度がある。
- ④ 被害者参加制度の導入によって、犯罪被害者やその遺族は、裁判員として裁判に参加できるようになった。

問 6 裁判の話題を受けて、Iさんは「うちの近所で土地の境界をめぐるトラブルが生じて、民事訴訟が起こされるみたいなんだ」と言った。Iさんの発言に関連して、民事の法制度と紛争解決に関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 6

- ① 訴訟以外の場で公正な第三者の関与の下で紛争を解決する制度を導入するため、裁判外紛争解決手続法(ADR法)が制定された。
- ② 損害賠償を求める訴訟では、原則として、過失のない場合でも責任を問われる。
- ③ 民事紛争を解決するための手段の一つとして、裁判所が関与する^{あつせん}斡旋がある。
- ④ 物の持ち主はその物を自由に扱うことができるという原則を、契約自由の原則という。

問 7 下校時刻が近づいてきたのでKさんたちは明日の勉強範囲を相談し、行政分野の復習をすることにして帰宅した。その晩、Kさんは、行政のあり方について授業ノートを確認した。現代日本の行政に関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 7

- ① 行政の活動に関する訴訟については、行政裁判所が審理を行う。
- ② 国家公務員の職業倫理強化を主な目的とする、行政手続法が制定された。
- ③ 法律による委任に基づき、行政機関がその法律の具体的な内容を政令や省令などによって定めることを委任立法という。
- ④ 国会審議活性化法により、内閣府や各省に、内閣によって任命される、副大臣と政務次官が設置された。

現代社会

問 8 Kさんは、試験勉強を契機に、権力分立や、国民の政治参加に関心をもつようになり、今度の国政選挙では、政策をよく考えて投票しようと思った。そこで、Kさんは、政党Xと政党Yが訴えている主要政策を調べ、それぞれの政党の違いを明確化させるために、現代社会の授業で習った知識を基にして、二つの対立軸で分類した。政党Xと政党Yは、下の図のア～エのいずれに位置すると思われるか。その組合せとして最も適当なものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

8

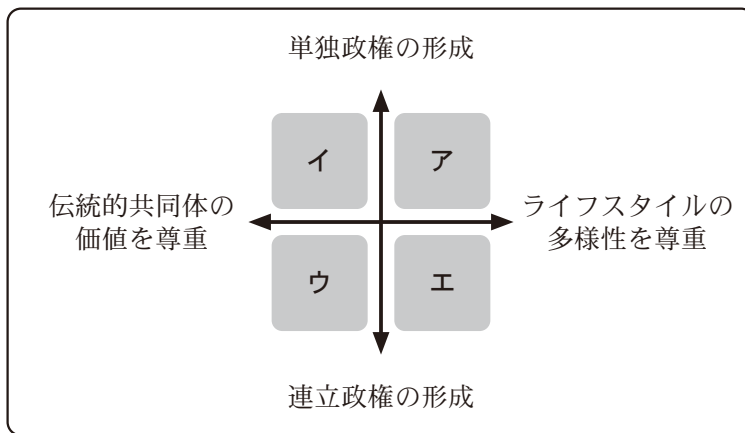
【政党Xの政策】

- ・ 二大政党制を目指した選挙制度改革を約束します。
- ・ 地域の結束と家族の統合を重視し、まとまりのある社会を維持していきます。

【政党Yの政策】

- ・ 多党制を目指した選挙制度改革を約束します。
- ・ 個々人がもつ様々なアイデンティティを尊重し、一人一人が輝ける世界を創っていきます。

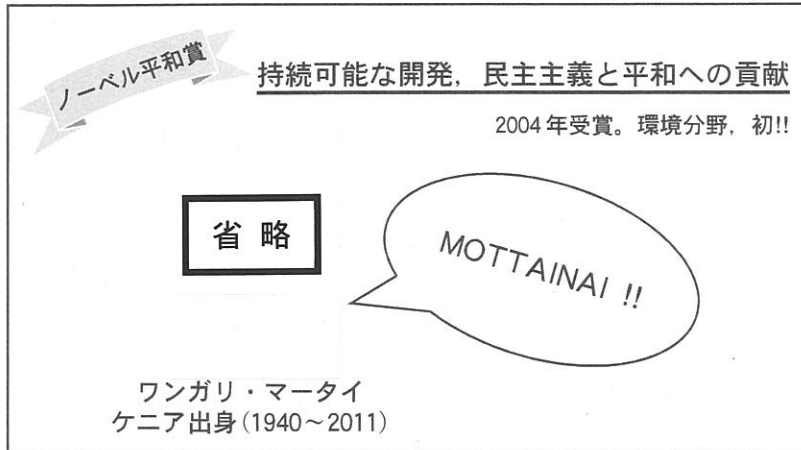
図 政策から読み取れる政党の志向性



- | | | | |
|-----------|---------|-----------|---------|
| ① 政党X — ア | 政党Y — ウ | ② 政党X — イ | 政党Y — エ |
| ③ 政党X — ウ | 政党Y — ア | ④ 政党X — エ | 政党Y — イ |
| ⑤ 政党X — ア | 政党Y — イ | ⑥ 政党X — イ | 政党Y — ア |

現代社会

第2問 次の文章を読み、下の問い(問1～5)に答えよ。(配点 16)



(マータイ氏の写真: "The Nobel Prize" Web ページより。)

ある高校のクラスで、先生が上のようなスライドを生徒に見せて、言いました。
「マータイさんが来日したとき、日本人が物を大切に使うことに感銘を受けて、『もったいない』という言葉に興味をもったそうです。しかし、この『もったいない』という言葉には、色々な意味をもたせることができます。例えば、『古いものにこだわり、新たな機会を開かないことの方が、もったいない』というような意味で使うこともできそうです。この言葉をきっかけとして、皆さんがこれまでの授業で学んで考えたことを、来週の授業で発表してみましょう。」

翌週の授業で、3人の生徒が発表を行いました。

I ヤマダさんの発表内容の一部

価値観は人それぞれ異なるものの、資源を無駄にしないという考えを貫くべき場面は確かにあるし、それこそが、「もったいない」の精神だと私は思います。例えば、最近、プラスチックゴミ問題が注目されていますが、その対策として、このような取組みを進めることを考えてみました。

- ア 使用済みの食品トレーを回収し、それを、新たなプラスチック製品の原料として使用する。
- イ 廃棄されたプラスチックゴミを適切に埋め立てる。
- ウ ストローやレジ袋等の使い捨てプラスチック製品の利用量を削減する。
- エ イベント会場などで、飲料用のプラスチックカップを使用後に回収し、洗浄・殺菌・消毒等をして何度も使用する。

プラスチックゴミは、クジラなど、自然界の生物にまで被害を及ぼしています。「もったいない」精神に即したこれらの取組みを進めれば、被害を減らすことができるのではないのでしょうか。「もったいない」に込められている、モノを大切に作る心を、生命体を尊重するということにまで広げて捉えていきたいと思えます。

問 1 循環型社会を推進するための施策として、3R が提唱されている。ヤマダさんの発表内容中のア～エのうち、3R に該当するものを、循環型社会形成推進基本法の下で定められている施策の優先順位の高い方から並べたものとして最も適当なものを、次の①～⑧のうちから一つ選べ。 9

- | | |
|---------|---------|
| ① ア→イ→ウ | ② ア→エ→イ |
| ③ イ→ア→エ | ④ イ→ウ→エ |
| ⑤ ウ→ア→イ | ⑥ ウ→エ→ア |
| ⑦ エ→ア→ウ | ⑧ エ→イ→ウ |

現代社会

II イケダさんの発表内容の一部

「もったいない」精神の表れ方の例として、古い建物をどのように扱うかという問題を取り上げます。多様な価値観の下での決定には、難しい問題があります。

ある市が、古い建物 A～C の三つを所有しています。市は、そのうちの一つを保存し、博物館として再利用するとともに、他の二つを取り壊して再開発することを計画しています。それに関して、ある任意団体がアンケートを実施しました。建物 A～C について、保存したい順に順位をつけてもらうアンケートです。100 人の市民が回答し、その回答は次の三つのグループに分けられました。

[グループ 1] (45 人)

| | |
|-----|------|
| 1 位 | 建物 A |
| 2 位 | 建物 B |
| 3 位 | 建物 C |

[グループ 2] (35 人)

| | |
|-----|------|
| 1 位 | 建物 C |
| 2 位 | 建物 B |
| 3 位 | 建物 A |

[グループ 3] (20 人)

| | |
|-----|------|
| 1 位 | 建物 B |
| 2 位 | 建物 C |
| 3 位 | 建物 A |

保存する建物を一つに決める方法として、次の i～iii を考えてみます。アンケートの集計結果を前提にして、i～iii それぞれの方法をとると、結果はどのようになるでしょうか。ただし、決選投票では、より多くの人が選んだ方を、保存する建物に決めます。その際の投票数や選好などの条件は、最初のアンケートと同じであるとします。

| 方法 | 保存する建物 |
|--|--------|
| i 「保存したい」1 位に選んだ人が最も多かった建物に決める。 | 建物 A |
| ii 「保存したい」1 位に選んだ人が多かった二つの建物に絞り、決選投票を行う。 | ア |
| iii 「保存したい」3 位に選んだ人が最も多かった一つの建物を除き、残りの二つの建物で決選投票を行う。 | イ |

投票の結果はしばしば「民意の反映」と語られますが、民意というものは決定方法によって異なりうると分かるでしょう。

問 2 イケダさんの発表内容中の ・ に入る建物の組合せとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。

- ① アー建物A イー建物B ② アー建物A イー建物C
 ③ アー建物B イー建物A ④ アー建物B イー建物C
 ⑤ アー建物C イー建物A ⑥ アー建物C イー建物B

問 3 実際の政治的意思決定に関しても、それぞれの決定の性質に応じて、様々な仕組みが設けられている。それらに関する次の記述A～Cの ～ に入る語句の組合せとして最も適当なものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。

- A アメリカの連邦議会は、大統領が拒否権を行使した法案を、出席議員の の賛成によって両院で再可決して成立させることができる。
- B 日本国憲法を改正する場合は、国会がそれを発議した後、国民投票で有効投票数の の賛成を得る必要がある。
- C 日本で住民が地方自治体の首長の解職を請求するためには、原則として、当該自治体の有権者の の署名が必要である。

- ① a 3分の1以上 b 過半数 c 3分の2以上
 ② a 3分の1以上 b 3分の2以上 c 過半数
 ③ a 過半数 b 3分の1以上 c 3分の2以上
 ④ a 過半数 b 過半数 c 3分の1以上
 ⑤ a 過半数 b 3分の2以上 c 過半数
 ⑥ a 3分の2以上 b 過半数 c 3分の1以上
 ⑦ a 3分の2以上 b 過半数 c 過半数
 ⑧ a 3分の2以上 b 3分の2以上 c 3分の1以上

現代社会

Ⅲ スズキさんの発表内容の一部

ケニアで環境破壊への対処に取り組んできたマータイさんは、「もったいない」という発想に含まれる、㉑自然などに対する畏敬の念に感銘を受けたそうです。

環境問題は人類共通の課題ですが、その一方で、環境保護よりも別の目標を優先したいと考える国もあるかもしれません。環境と経済のバランスに関しては、歴史的背景や経済力が国によって異なることを念頭に置いて考える必要があります。環境条約には「共通だが差異のある責任」の原則を定めているものがあり、その場合、先進国は、途上国よりも積極的な環境保全措置を採るよう求められます。

㉒諸国の相違を考慮に入れた制度は、他にもあります。国家が法的に平等であることを原則としつつ、国ごとの特殊性を認めながら、国際社会が協調して共通の課題に対処していくことが望ましいでしょう。

問 4 下線部㉑に関して、人間にとっての自然のかけがえのなさや人間と自然のつながりに関する概念を表す次の記述 a・b と、それらに対応する語句ア～ウの組合せとして最も適当なものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 12

- a 将来にわたって人類が閉じられた空間の中で生きることを前提とし、その中で環境に負荷をかけ過ぎることに警鐘を鳴らすために、ボールディングが用いた概念
- b 異なる種の間や同じ種のなかなどにある豊かな差異のことであり、人間にとっては遺伝資源として保全すべき価値をもつものを示す概念

- ア 宇宙船地球号
イ アニミズム
ウ 生物多様性

- ① a — ア b — イ ② a — ア b — ウ ③ a — イ b — ア
④ a — イ b — ウ ⑤ a — ウ b — ア ⑥ a — ウ b — イ

問 5 下線部①に関する次の記述ア～ウの正誤の組合せとして最も適当なものを、
下の①～⑧のうちから一つ選べ。 13

ア 環境条約の「共通だが差異のある責任」の原則によれば、問題の発生に深く
関わり、資金や技術などの面で問題解決能力も高い国家が、より大きな責任
を果たすよう求められる。

イ 核拡散防止条約は、核兵器保有国数を現状より増やさないことを一つの目
的として、「非核兵器国」にのみ、核兵器の製造や取得を禁止している。

ウ 一般特惠関税制度は、経済開発の必要性に配慮し、途上国による輸入を促
進するための特別待遇の制度である。

- | | | | |
|---|-----|-----|-----|
| ① | ア—正 | イ—正 | ウ—正 |
| ② | ア—正 | イ—正 | ウ—誤 |
| ③ | ア—正 | イ—誤 | ウ—正 |
| ④ | ア—正 | イ—誤 | ウ—誤 |
| ⑤ | ア—誤 | イ—正 | ウ—正 |
| ⑥ | ア—誤 | イ—正 | ウ—誤 |
| ⑦ | ア—誤 | イ—誤 | ウ—正 |
| ⑧ | ア—誤 | イ—誤 | ウ—誤 |

現代社会

第3問 ある高校のクラスでは現代社会の時間に、市場経済と政府の役割に関する学習を行った。次の会話文Ⅰ～Ⅵを読み、下の問い(問1～8)に答えよ。
(配点 27)

会話文Ⅰ

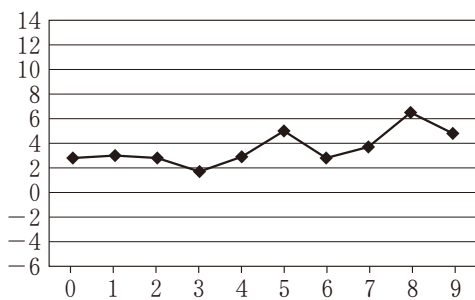
先生：日本は戦後、市場経済の下で経済成長してきたんだよ。その歩みを見てみよう。

問1 先生の提案を受けて、生徒たちは過去の日本の経済成長率を調べ、時代ごとにグラフにまとめた。次の五つの折れ線グラフは、生徒たちが日本の経済成長率の推移を10年ごとにまとめたものであり、1960年代、1970年代、1980年代、1990年代、2000年代のいずれかのデータを示している。グラフの横軸は時系列を示しており、例えば1960年代のグラフでは0～9の数字がそれぞれ1960～1969年の各年を表している。縦軸の数値は実質GDPに基づく年ごとの経済成長率を、パーセントで表したものである。

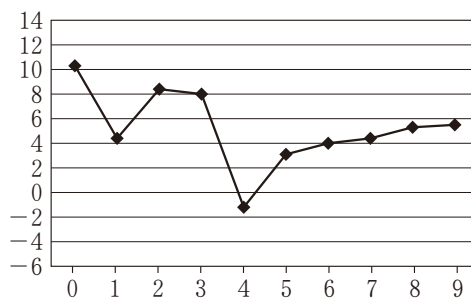
1980年代の経済成長率のグラフとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

| |
|----|
| 14 |
|----|

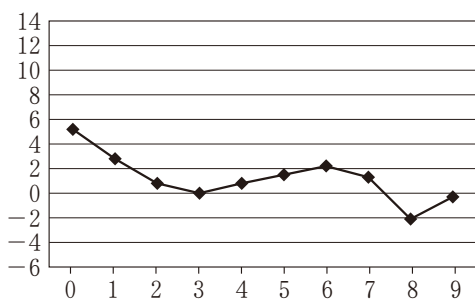
①



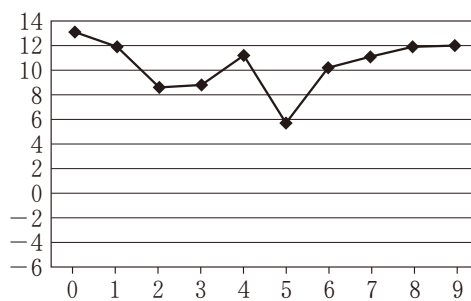
②



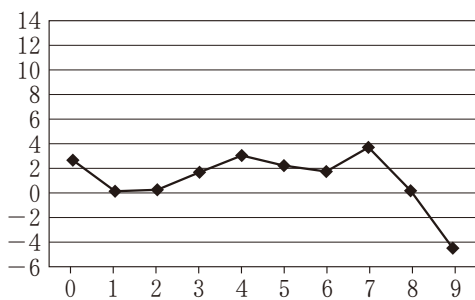
③



④



⑤



内閣府経済社会総合研究所編『長期遡及主要系列国民経済計算報告—平成2年基準(昭和30年～平成10年)』および内閣府経済社会総合研究所「2009(平成21)年度国民経済計算(2000年基準・93 SNA)遡及推計」(内閣府経済社会総合研究所 Web ページ)により作成。

現代社会

会話文Ⅱ

シマダ：経済成長率は、GDPから求めることができますよね。GDPはその国でどれだけ財やサービスの生産が行われたかを付加価値の合計で示した数字なので、その動きをまとめるだけで日本経済の歩みがいろいろと見えてきますね。

ナカイ：少し気になったんですが、「その国で行われた財やサービスの生産」というのは、何を指すんですか。日本経済は外国とも様々な形で関係しているから、何が日本のGDPに含まれるか、少し分かりにくい気が……。

タカギ：そうですね、日本のGDPに含まれるものと含まれないものを、調べてみましょうか。

問 2 生徒たちは、日本のGDPに何が含まれるかを調べた。日本のGDPに含まれるものを次のA～Cからすべて選んだとき、その組合せとして最も適当なものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。

| |
|----|
| 15 |
|----|

- A 日本のプロ野球でプレーするアメリカ人選手に球団が支払った年俸
- B 日本人アーティストがイギリスで行ったコンサートの興業収入
- C 日本の温泉地を訪れた中国からの観光客が旅館に支払った宿泊料

- ① AとBとC
- ② AとB
- ③ AとC
- ④ BとC
- ⑤ A
- ⑥ B
- ⑦ C
- ⑧ 日本のGDPに含まれるものはない

会話文Ⅲ

先生：先ほど、日本経済が外国と関係しているという発言があったけど、良い点に気がついたね。日本経済の動きを理解するためには、国際貿易などについてもしっかりと見ていく必要があるんだよ。

問 3 国際貿易に関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

| |
|----|
| 16 |
|----|

- ① 途上国で生産された原材料と、先進国で生産された工業製品が交換される貿易は、水平貿易と呼ばれる。
- ② 保護貿易の手段の一つとして輸入品検品の厳格化が行われる場合、それは非関税障壁と呼ばれる。
- ③ 他の経常収支の項目が一定である場合、日本の貿易収支の黒字幅が拡大することは、為替レートが円安に動く一因となる。
- ④ 日本がコメの輸入について、部分開放を初めて受け入れた多角的貿易交渉は、ドーハ・ラウンドである。

現代社会

会話文Ⅳ

シマダ：日本が世界経済のなかで経済成長を実現した背景には、やはり自由な市場の働きがあるんじゃないかと思います。

ナカイ：でも、経済がいつも順調に発展するとは、限らないんじゃないでしょうか。景気が悪いときもあるし、政府が行う景気対策のニュースもよく見聞きします。

先生：良いところに気がついたね。自由市場はいつでも順調に経済を成長させるとは限らず、景気の変動もつきものなんだ。景気の波を小さくして、経済を安定化させるためには、政府の働きも重要になってくるんだ。

問 4 景気変動とその安定化に関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

| |
|----|
| 17 |
|----|

- ① コンドラチェフの波と呼ばれる景気変動は、在庫投資の変動によって起こるとされる。
- ② ジュグラーの波と呼ばれる景気変動は、建設投資の変動によって起こるとされる。
- ③ 景気が悪いときに行われる裁量的財政政策の一つとして、政府支出の削減がある。
- ④ 景気の自動安定化装置の役割を担う制度の一つとして、所得税の累進課税制度がある。

会話文V

先生：他にも、政府には大事な働きがあるよ。多くの一般道は国や自治体で作ったものだけど、一般道には二つの特徴的な性質がある。第一に、渋滞していない限り、ある人が道路を通っても、それによって他の人が通れる道路の量が減ったりはしないよね。こういう性質のことを「非競合性」と呼ぶよ。第二に、一般道のあちこちに料金所を置くのは無理だから、通行料を支払った人にしか道路を使わせない、ということはできないね。こういった性質のことを「非排除性」と呼ぶんだ。では、①この非排除性を念頭において、もし政府が道路を作ることに関与せず、その供給をすべて企業に任せると、何が起きるか考えてごらん。

タカギ：ああ、そうか。 **A** から、企業は **B** わけですね。

先生：そのとおり。だから、この一般道のような財は、供給を企業だけに任せると社会にとって望ましくない結果をもたらすので、政府の働きが必要になるんだ。こうした財を「公共財」と言うよ。世の中には他にも、「非競合性をもつけど非排除性はない財」や「非排除性をもつけど非競合性はない財」もあるよ。調べてみよう。

問 5 下線部①における先生の問いかけを踏まえ、上の会話文中の **A** と **B** に入る発言として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 **18**

- ① A 一般道を作るためには行政上の複雑な手続きが必要となる
B 社会で必要とされる量の道路を作ろうとしない
- ② A 一般道を使う人はお金を支払わない
B 社会で必要とされる量の道路を作ろうとしない
- ③ A 一般道を作り過ぎても損をする心配がない
B 社会で必要とされる以上に道路を作ろうとする
- ④ A 一般道は世の中のあらゆる人が利用する可能性がある
B 社会で必要とされる以上に道路を作ろうとする

現代社会

問 6 生徒たちは様々な財・サービスについて、非競合性と非排除性をもつかどうかを調べ、次の表にまとめた。表のア～ウと、そこに入るものA～Cの組合せとして最も適当なものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 19

| | | 非排除性 | |
|------|------|------|----------|
| | | も つ | もたない |
| 非競合性 | も つ | ア | イ |
| | もたない | ウ | 食料品・衣服など |

- A ケーブルテレビの有料チャンネル
- B 自由に釣りをしてもよい小さな池にいる魚
- C 岬の灯台

- ① アーA イーB ウーC
- ② アーA イーC ウーB
- ③ アーB イーA ウーC
- ④ アーB イーC ウーA
- ⑤ アーC イーA ウーB
- ⑥ アーC イーB ウーA

会話文Ⅵ

先生：他にも市場にだけ任せて決めてしまっは好ましくない領域がある。例えば、雇用だよ。労働力にも需要と供給があり、労働市場で取引されている。でも労働市場を完全に自由にしてしまうと、多くの労働問題を引き起こしてしまうおそれがあるんだ。それを防ぐために、賃金や労働時間などに関して様々なルールが法律で定められているよ。誰もが人間らしく生きていける自由で公正な社会を実現するためには、適切な法律や制度をつくって市場とうまく付き合っていくことが重要なんだ。

問 7 生徒たちは労働市場における需要と供給について、様々な意見を述べた。次の会話文中の **A** ~ **C** に入る語句の組合せとして最も適当なものを、下の①~⑧のうちから一つ選べ。 **20**

シマダ：日本は少子高齢化が進んで、働く年齢層の人が減っていると聞きました。

これは労働市場における **A** が減少しているということですよ。

ナカイ：企業の方も、人手不足に対応するべく、省力化を進めていくんじゃないか

と思います。店員を雇わなくてもよい無人コンビニなどが増えていくと、

コンビニ業界の労働市場における **B** が減少するかもしれません。

タカギ：私は女性の働き方に関心があります。雇われて働こうとする女性が増える

ということは、労働市場における **C** の増加を意味するわけですね。

- | | | | |
|---|-------|-------|-------|
| ① | A 需 要 | B 需 要 | C 需 要 |
| ② | A 需 要 | B 需 要 | C 供 給 |
| ③ | A 需 要 | B 供 給 | C 需 要 |
| ④ | A 需 要 | B 供 給 | C 供 給 |
| ⑤ | A 供 給 | B 需 要 | C 需 要 |
| ⑥ | A 供 給 | B 需 要 | C 供 給 |
| ⑦ | A 供 給 | B 供 給 | C 需 要 |
| ⑧ | A 供 給 | B 供 給 | C 供 給 |

現代社会

問 8 日本の労働に関わる法律に関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

| |
|----|
| 21 |
|----|

- ① 労働基準法に定められた労働条件の最低基準を使用者に守らせることを目的とする機関として、労働基準監督署が設置されている。
- ② 有期労働契約の期間の定めのない契約への転換について規定した法律は、労働関係調整法である。
- ③ 労働者派遣法が改正されたことにより、現在、製造業分野に労働者を派遣することは、原則として違法である。
- ④ 労働審判制度においては、労働組合が労働紛争解決の申立てをすることが認められている。

第4問 次の文章を読み、下の問い(問1～6)に答えよ。(配点 19)

高校生のモリさんは、友人のワダさんと二人で、現代社会の教科書に出てくるアルファベットの略語の勉強を行うことにした。略語とその内容を正しく理解できているかを確認するために、二人は勉強方法を工夫して、以下の四つのルールを決め、カードゲームの感覚で勉強することにした。

- ・一方がアルファベットの略語の内容を話して、他方がそれに対応する略語を、カードの中から選んで答える。
- ・使用できるカードは、次の10種類で1種類につき2枚ずつ合計20枚である。
- ・各アルファベットは、**大文字**としても**小文字**としても**使用**できる。
- ・1回の質問と回答が終わるごとに、取り出したカードは元の位置に戻す。

C

E

I

L

N

O

P

Q

S

T

モリ：じゃあ、最初に、新しい友達をつくったり友達との関係を深めたりするインターネット上のサービスのことは？

ワダ：ん？ 個々のサービス名で言うと、Twitterとかでしょ。まとめて言うと……「**S****N****S**」でいいんだよね。

モリ：そうそう、正解！ こんな感じのゲーム。SNSって欲しい情報が手軽に入手できる反面、たまに①欲求不満のはけ口のような書き込みもあるよね。じゃあ、問題を続けようか。手に入る情報量の爆発的な増大と、それに伴う通信手段の急速な進歩によって、私たちの生活だけでなく世界全体で起きている大きな変化のことは？

現代社会

ワダ：えーっと……，「**ア**」の後に「革命」や「産業」をつければいいんだよね。

モリ：あまりにも身近すぎて簡単だったかなあ。じゃあ次はちょっと難しいよ。最近、医療技術については⑥臓器移植の進歩ばかりでなく、例えば、再生医療が話題になっているね。受精卵や卵子を直接利用する必要がなく、生命倫理上の問題のいくつかが問われにくくなったと言える点で画期的だとされる万能細胞は？

ワダ：それって、「**イ**」細胞だよな。ちょうど今日の現代社会の授業で、生命倫理をめぐる問題を学んだから知っているよ。じゃあ、今度は出題役を交代ね。……う～ん、問題を作るのは意外と難しいなあ。カードの種類も限られているし。

モリ：今日の授業で習ったところから問題を作れないかなあ。

ワダ：そうだ！ 生命倫理についてのノートには、「生命や生きることに絶対的な価値をおき、その維持を最優先する」考え方の記述があるけれど、その考え方を何て呼ぶかな？

モリ：それなら「**ウ**」でしょ？ 今日の授業では「人間らしい生活・生命の質を考える」も習ったね。人間らしい生活ということだと、㉔ダイバーシティの発想が社会に浸透して、働き方に対する意識も変わってきているよね。いま私たちはまだ㉑青年期という時期を生きているって、この間、先生が言ってたけど、将来の働き方はもっと変わっているかもしれないよね。

ワダ：出題役をしたら、略語の内容も理解しないと問題が作れないと分かったよ。現代社会の授業で内容を教わったときは、英語の正式名称は無視して略語の暗記にばかり気をとられていたな。でも、英語の正式名称と内容の対応を確認すれば、もっと理解しやすくなりそうだね。家に帰ったら、略語の復習をしながら問題を作ってみようかな。アルファベットカードの種類を増やせば、いろんな略語が作れるね。明日もやろうよ！

問 1 上の会話文中の **ア** ~ **ウ** に入るアルファベットの略語を表すカードの組合せとして最も適当なものを、次の①~⑧のうちから一つ選べ。

22

| | ア | イ | ウ |
|---|---------|---------|---------|
| ① | T, P, P | E, S | S, O, L |
| ② | T, P, P | E, S | Q, O, L |
| ③ | T, P, P | I, P, S | S, O, L |
| ④ | T, P, P | I, P, S | Q, O, L |
| ⑤ | I, C, T | E, S | S, O, L |
| ⑥ | I, C, T | E, S | Q, O, L |
| ⑦ | I, C, T | I, P, S | S, O, L |
| ⑧ | I, C, T | I, P, S | Q, O, L |

現代社会

問 2 下線部④に関して、欲求不満が生じたときの対処について、防衛機制「合理化」の例とされる有名な寓話を次に示した。

【防衛機制「」の例】

高い木になっているブドウを見つけて欲しくなり、それを採ろうとすることがどうしても採れなかったキツネが、。

この例ではに合理化が、に「『あのブドウは酸っぱいに違くない』と考える」が挿入され、寓話が完成する。これを題材に、他の防衛機制の例を示す場合、防衛機制「」と、それに対応する例に入る記述の組合せとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。

- ① X 反動形成
Y 『今はおなかがいっぱいだ』と考える
- ② X 反動形成
Y 『今日は誰と遊ぼうかな』と考える(ブドウのことを忘れている)
- ③ X 抑 圧
Y ブドウの木に火をつけて燃やしてしまう
- ④ X 抑 圧
Y 『このブドウは僕には食べられるのが嫌なんだ』と考える
- ⑤ X 置き換え
Y ブドウに化けようとする
- ⑥ X 置き換え
Y ブドウではなく大好物のイチジクを採りに行く

問 3 下線部①に関して、モリさんは授業で日本における臓器移植について学習した際、2009年の臓器移植法改正後、臓器を提供する側のドナーについて、どのような条件があれば臓器提供が行われるのかに関心をもち、調べてみた。ドナー候補が臓器提供について書面による有効な意思表示をしていない場合に着目し、ドナー候補の年齢と臓器提供への家族の承諾の有無という二つの条件で分類して、次の表のケースA～Dを考えた。このうち、脳死判定後に臓器を提供できるケースの組合せとして最も適当なものを、下の①～⑨のうちから一つ選べ。

24

| | ドナー候補 | 臓器提供への 家族の承諾 |
|---|-------|-----------------|
| A | 15歳以上 | 有 |
| B | 15歳以上 | 無 |
| C | 15歳未満 | 有 |
| D | 15歳未満 | 無 |

- ① AとBとCとD
- ② AとBとC
- ③ AとB
- ④ AとC
- ⑤ A
- ⑥ B
- ⑦ C
- ⑧ D
- ⑨ 提供できるケースはない

現代社会

問 4 下線部㉓に関して、社会の多様性に対応して様々な人権保障の広がりがみられる。それらを背景として、整備されてきた日本の法制度に関する記述として **適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。** 25

- ① 男女共同参画社会基本法は、男女間の格差改善の機会を提供する積極的改善措置について定めている。
- ② 日本以外の国や地域の出身者とその子孫に対する不当な差別的言動を解消するための取組みについて定めた法律が、制定されている。
- ③ 障害者基本法の制定によって、国や地方自治体、企業は、一定割合の障害者雇用が原則として義務づけられている。
- ④ 育児・介護休業法によれば、男性が育児・介護休業を取得することが認められている。

問 5 下線部㉔に関して、青年期の発達に関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 26

- ① ルソーは、「ライフサイクル」という語を用いて、乳児期から青年期を経て成熟期(老年期)に至る八つの期からなる人間の発達について論じた。
- ② 青年期に、親をはじめとする大人の保護や監督から離れ、精神的に自立していくことは、「心理的離乳」と呼ばれる。
- ③ ユングは、子どもから大人への過渡期にあり、子どもの集団にも大人の集団にも安定した帰属意識をもてない青年を「境界人」と呼んだ。
- ④ エリクソンによる「心理・社会的モラトリアム」とは、アイデンティティを確立できず、自分がどのような人間なのかを見失った状態を指す。

問 6 帰宅したワダさんは、明日に備えて、現代社会の教科書に出てくる他の略語の復習をすることにした。ワダさんは教科書の、主に国際社会の分野から四つの略語を選び出し、出題者の立場からそれぞれの略語に関する説明文を考えた。ワダさんが選んだ次の四つの略語の説明文として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。 27

- ① 「A」, P」, E」, C」: 1989 年以來, 太平洋を取り巻く国や地域が参加し, 域内の開かれた経済協力体制の構築を目指して議論を進めてきたもの
- ② 「W」, T」, O」: 保護貿易の推進に向けた国際的なルール作りを担っていた GATT を継承して, 1995 年に発足したもの
- ③ 「B」, R」, I」, C」, S」: 国土や人口, 資源等の規模の大きさを背景として, 特に 2000 年代に経済成長が注目されるようになった 5 か国の頭文字をとった呼称として作られたもの
- ④ 「I」, P」, C」, C」: 1988 年に設立され, 地球の気候変動に関して, 地球温暖化に伴う影響なども含め, 科学的な知見に基づいて評価した報告書を数年おきにまとめているもの

現代社会

第5問 生徒Xは現代社会の授業で、現代日本では高齢者をはじめとする住民が、食料品を入手するのに不便や苦勞を感じる地域が増えていること(買い物弱者問題)を学び、興味をもった。生徒Xはこの問題を抱えている地域の特性や、住民の不便や苦勞の傾向を踏まえた対策が選ばれる必要があると考え、探究学習の課題とした。次の問い(問1～3)に答えよ。(配点 12)

問1 生徒Xは資料を収集する過程で、2012年に農林水産省が公表した資料を発見した。次の**資料ア**はその一部である。**資料ア**から読み取れることとして最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 28

資料ア 食料品の買い物で不便や苦勞を感じている人の割合と構成比

| | 総数 | 不便や苦勞を感じている人の割合(%) | | 構成比(%) | |
|-----------|-------------------|--------------------|------|--------|-------|
| | | A地域 | B地域 | A地域 | B地域 |
| | | 45.3 | 46.1 | 100.0 | 100.0 |
| 年齢層 | 50歳未満 | 48.1 | 35.4 | 12.3 | 9.7 |
| | 50～64歳 | 40.9 | 36.8 | 27.1 | 29.7 |
| | 65～74歳 | 46.3 | 46.1 | 33.3 | 25.2 |
| | 75歳以上 | 47.1 | 56.8 | 27.4 | 35.4 |
| 世帯類型 | 高齢単身世帯 | 46.3 | 56.0 | 33.7 | 19.3 |
| | 高齢単身世帯以外の単身世帯 | 37.5 | 42.2 | 15.0 | 5.5 |
| | 高齢夫婦世帯 | 47.2 | 51.2 | 21.4 | 26.1 |
| | 高齢夫婦世帯以外の2人世帯 | 45.9 | 45.5 | 12.9 | 10.7 |
| | 3人以上世帯 | 46.5 | 38.4 | 17.0 | 38.4 |
| 店舗までの道路距離 | 250m未満 | 34.8 | 0 | 9.9 | 0 |
| | 250m以上500m未満 | 45.5 | 33.3 | 30.1 | 0.8 |
| | 500m以上1,000m未満 | 44.4 | 23.8 | 7.8 | 7.7 |
| | 1,000m以上2,000m未満 | 47.0 | 42.4 | 11.9 | 3.3 |
| | 2,000m以上5,000m未満 | 46.3 | 34.9 | 39.0 | 16.7 |
| | 5,000m以上10,000m未満 | 37.5 | 38.9 | 1.3 | 17.6 |
| | 10,000m以上 | 0 | 54.5 | 0 | 53.9 |

(注1) **資料ア**はA地域、B地域で別々に行われた社会調査の結果を並べた表である。A地域は大都市の通勤圏内にある中都市の丘陵団地、B地域は山地内の山村である。世帯数はA地域が約2,400世帯、B地域が約2,100世帯である。

(注2) 「構成比」は、3つの項目の各区分について、それらが各地域全体に占める割合を示している。四捨五入のため、「構成比」の合計が100%にならない項目もある。

(注3) 「高齢単身世帯」とは65歳以上の人1人のみの世帯を、「高齢夫婦世帯」とは夫65歳以上、妻60歳以上の夫婦1組のみの世帯を指す。

(注4) 「店舗までの道路距離」における数値は、回答者が最もよく利用する店舗について尋ねた結果である。

農林水産省農林水産政策研究所「食料品アクセス問題の現状と対応方向—いわゆるフードデザート問題をめぐって」(平成24年)(農林水産省Webページ)により作成。

- ① 回答者のうち老年人口にあたる人々は、両地域ともに全回答者の6割以上を占めており、不便や苦勞を感じている人の割合は、「75歳以上」ではB地域の方がA地域よりも高い一方で、「50歳未満」ではA地域の方がB地域よりも高い。
- ② B地域では「高齢単身世帯」の人と「高齢夫婦世帯」の人のうち不便や苦勞を感じている人の割合が5割を超えており、A地域では「3人以上世帯」の人における不便や苦勞を感じている人の割合が、世帯類型の中で最も低い。
- ③ 全回答者に占める単身世帯の人の割合はA地域が33.7%、B地域では19.3%であるが、2人世帯の人の割合はA地域よりもB地域の方が高い。単身世帯の人における不便や苦勞を感じている人の割合は、B地域の方が高い。
- ④ B地域では、店舗までの道路距離が「10,000 m以上」である人が構成比の5割以上を占め、その内不便や苦勞を感じている人が半数以上を占めているが、A地域では、「250 m以上 500 m未満」、「2,000 m以上 5,000 m未満」の構成比がそれぞれ3割以上を占めており、不便や苦勞を感じている人の割合がともに4割未満である。

問 2 次の会話文 I では、生徒 X が生徒 Y・生徒 Z に複数の資料を示し、3人で地域条件を踏まえた買い物弱者問題対策のあり方について議論している。会話文 I で生徒 Y と生徒 Z が異なる意見を示したのは、会話文中の「資料」の解釈に相違があったからだと考えられる。両者は、下の資料イか資料ウのどちらか一つの資料を参考にして主張している。両者による資料の解釈の相違を説明した記述として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

29

会話文 I

X：地域の人口特性や交通条件が異なれば、日常的な買い物での不便や苦勞も違ってくると思うんだ。こうした条件や住民のニーズを踏まえて買い物弱者問題に対処するのが、自治体の重要な役割だと思うんだよね。

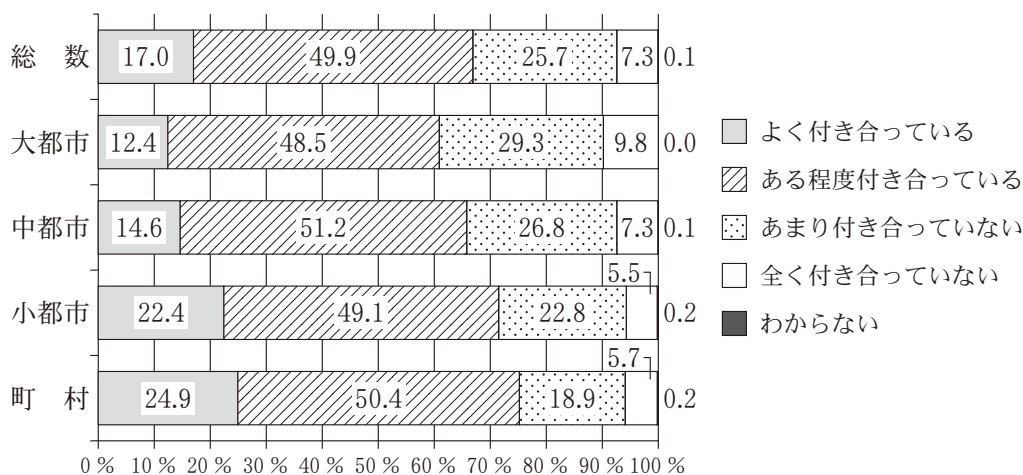
現代社会

Y：自治体は買い物弱者問題に深く関わるということに慎重であるべきだと、私は思うな。「多くの自治体では財政状況が厳しい」と先生が言っていたよね。支出を抑えるためにも、自治体はなるべく介入しない方がいいと思うよ。それに自分たちの生活に関わることなんだから、あくまで住民が知恵を出し合って自律的に解決方法を探る方が、望ましい対策ができるよ。手元には限られたデータしかないのでこの資料を基に考えたんだけど、人と人とのつながりが比較的によくみられる地域では、住民の力を活用できる可能性があるんじゃないかな。

Z：住民同士の協働が自然に出来るのに期待するのは楽観的すぎるよ。Yさんが見ているその資料によれば、人と人とのつながりは、地域によって随分異なると考えられるよね。住民の力を活用するのが難しい地域のことも考えないと。

X：住民同士の協働は大切だけど、例えば近所に住む人同士が知り合うためのきっかけとして、一緒に食事をする機会を作るなど、まずは、人と人とのつながりを開拓する取組みを推進すべき地域もあるということだね。

資料イ 現在の地域での付き合いの程度(平成31年2月)



(注) 資料イは「あなたは、地域での付き合いをどの程度していますか。この中から1つだけお答えください」という質問に対する回答結果である。大都市とは東京都区部と政令指定都市、中都市とは大都市以外の人口10万人以上の市、小都市とは人口10万人未満の市、町村とは町村部を指す。四捨五入のため、各項目の合計の数値が100%にならない場合がある。

内閣府大臣官房政府広報室『社会意識に関する世論調査』(平成31年2月)により作成。

資料ウ 食料品の買い物で不便や苦勞を感じている人の割合と構成比(地域活動への参加度別)

| | 不便や苦勞を感じている人の割合(%) | | 構成比(%) | |
|-------------------|--------------------|------|--------|-------|
| | A 地域 | B 地域 | A 地域 | B 地域 |
| 総 数 | 45.3 | 46.1 | 100.0 | 100.0 |
| 参加のみならず企画・立案もしている | 41.2 | 43.4 | 1.9 | 6.7 |
| 自ら進んで参加している | 32.9 | 37.1 | 10.5 | 23.4 |
| 人に誘われれば参加している | 51.5 | 48.1 | 12.1 | 36.9 |
| 参加していない | 45.6 | 49.7 | 75.4 | 33.0 |

(注) 資料ウの A 地域と B 地域および「構成比」については、資料アの(注1)と(注2)を参照せよ。

資料アと同じ出典により作成。

- ① 生徒 Y は、資料イを基に、地域の人と「よく付き合っている」人の割合が、都市規模の中で町村が最も高いことに着目し、それを根拠にして主張している。それに対して、生徒 Z は、資料イを基に、地域の人と「よく付き合っている」人の割合が町村でも低下していることに着目し、それを根拠にして主張している。
- ② 生徒 Y は、資料ウを基に、A 地域・B 地域ともに「参加のみならず企画・立案もしている」人も「参加していない」人も、不便や苦勞を感じている人の割合が4割以上であることに着目し、それを根拠にして主張している。それに対して、生徒 Z は、資料ウを基に、A 地域で地域活動に参加している人の構成比が B 地域よりも低いことに着目し、それを根拠にして主張している。
- ③ 生徒 Y は、資料ウを基に、B 地域の地域活動に参加している人の構成比が A 地域よりも高いことに着目し、それを根拠にして主張している。それに対して、生徒 Z は、資料ウを基に、両地域の地域活動に「自ら進んで参加している」人において、不便や苦勞を感じている人の割合が他の項目よりも低いことに着目し、それを根拠にして主張している。
- ④ 生徒 Y は、資料イを基に、地域の人と「よく付き合っている」人の割合が高い傾向にある都市規模だけに着目し、それを根拠にして主張している。それに対して、生徒 Z は、資料イを基に、地域での付き合いの程度が都市規模の大小によって異なることに着目し、それを根拠にして主張している。

現代社会

- 問3 会話文Ⅰに続き、次の会話文Ⅱで生徒X・生徒Y・生徒Zは、買い物弱者問題対策における自治体などの関わり方について議論している。生徒X・生徒Y・生徒Zが異なる意見を示したのは、依拠する立場に相違があったからだと考えられる。会話文Ⅱ中にある下線部①～③の部分の発言は、政治や経済について異なる立場を表した下の文章P・Qのどちらの立場に近い内容か。その組合せとして最も適当なものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。
- | |
|----|
| 30 |
|----|

会話文Ⅱ

- Z：私は民間企業やボランティア等の参入も併せて考える必要があると思うな。
① 足腰が不自由なため外出が困難な高齢者にもサービスが行き届く施策を講じることが、買い物弱者問題を解決するために不可欠だよね。しかし、それを自治体の力だけで実現するのは困難だと思うんだ。
- X：なるほど。歳出抑制を優先して民間企業やボランティアに任せるような政策は望ましくないと私は思うけれど、君たちの意見を踏まえれば、自治体は対策に協力してくれるボランティアの育成と活用にも力を入れるべきだね。
- Y：ボランティアの育成にも支出が伴うでしょ。私は、まずは住民こそが主体的にこの問題について考え、互いに協働し、解決に向けて活動するべきだと思うな。そうすれば、自治体が税金を支出しなければ解決できない切実な課題が何かが、明確になるだろうし。
- X：実際には、住民同士の協働だけでは対処が難しいこともあるよ。例えば、食料品店を誘致するのは住民の力だけでは容易じゃないよ。② 自治体が土地と建物を取得して食料品店を設置する際も、交通の便が悪い地域に住んでいる人も買い物がしやすくなるように自治体がバスを運行し、品揃えの充実などの条件を指定した上で委託する民間企業を公募し、プレゼンテーションによって取組みを評価して選べば、住民の買い物の不便や苦勞を減らす取組みにつながるよ。
- Y：それでも、採算が合う取組みでないと、自治体が新たに運営費補助を求められたり、企業に撤退されたりするよ。③ 採算性を高めたいなら、自治体が独自の取組みをするよりも、規制緩和をする方がよいと思うよ。自治体の役割を、

民間企業が経済活動をしやすくすることにとどめて、参入した企業がそれぞれ自由に競い合えば、採算性と良質なサービスが両立し、結果として住民が喜ぶ効果的な対策につながるよ。

Z：そういえば、授業で先生が言っていたね。持続可能な社会のあり方について、現実には個人間で考え方が異なるなかでは、個別の利害対立をどのように乗り越えられるかという問題意識も大切だって。ここまでの話を聞いていると、XさんとYさんには、共通した見解が見いだせるよ。次はその点について検討してみようか。

P 政治的にも経済的にも個人の自由を最大限に尊重し、国家や地方自治体には最小限の機能だけを求め、福祉政策などの再分配には否定的な立場。

Q 不平等を是正する「公正としての正義」を原理とし、政治的にはすべての個人の自由を等しく尊重するが、経済的には過度な市場競争を避け、福祉政策などの再分配を重視する立場。

- ① a—P b—Q c—P
- ② a—P b—Q c—Q
- ③ a—P b—P c—Q
- ④ a—Q b—P c—Q
- ⑤ a—Q b—P c—P
- ⑥ a—Q b—Q c—P